

「おはよう」から始まる、小布施の朝

スキニに送る、あたたかなエール



表紙:長野県・信州あいさつ運動

毎月11日は、大人から子どもへあいさつを届ける「信州あいさつの日」です。小布施町でも、地域の大人たちが登校する子どもたちへあたたかな声をかけています。元気な返事も、少し眠そうな顔も、その子の大切な「今」。一人ひとりの朝に寄り添いながら交わす「おはようございます」の一言には、子どもたちのすこやかな成長を願う地域の想いが込められています。

目次

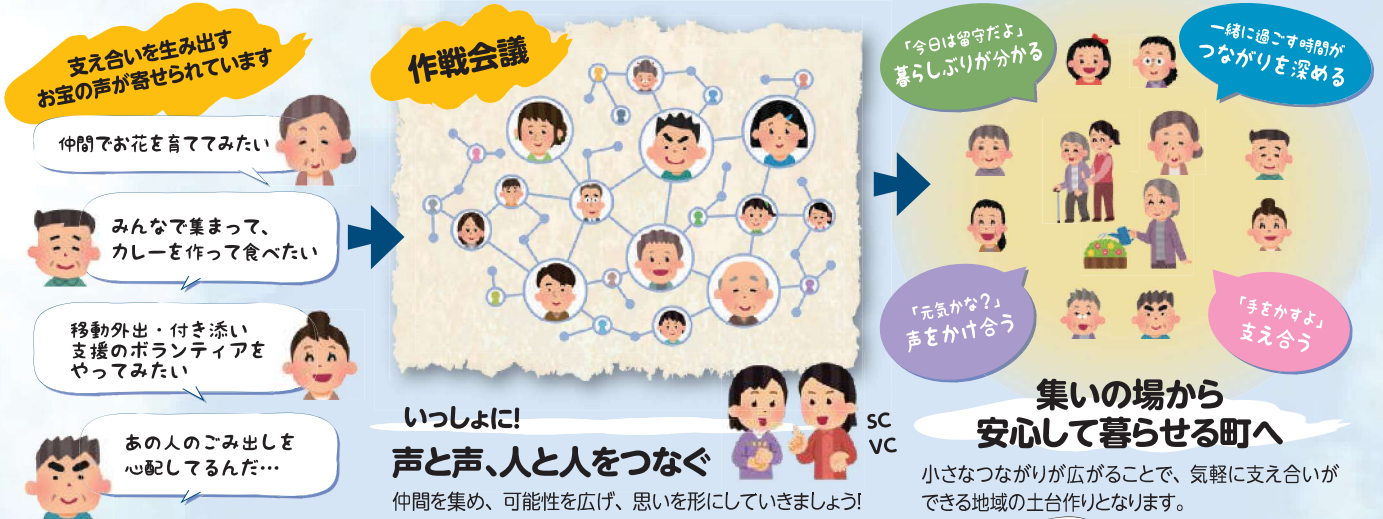
- 2P 支え合いまちづくりレポート
- 3P ボランティア講座・交流会
家族介護者のつどい
「障がい者希望の旅」のお知らせ
- 4P 事業計画と資金収支予算(概要)
- 5P デイサービスの多世代交流
コーヒーボランティア
しょうぶ提供のお願い
- 6P 町で働く「ふくし」のカタチ
「日赤活動資金」「社協会費」のお願い

小布施町支え合いまちづくりレポート vol.46



やってみたい! の小さな声を **支え合い** につなげます。

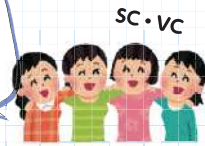
令和8年度から、地域包括支援センターに生活支援コーディネーター (SC) が配置され、ボランティアコーディネーター (VC) も一緒に町の支え合いの仕組みづくりを考えます。さらに、町中に支え合いのつながりを広げていきます。



今年度の重点取り組み

- ▶ 身近な地域での、新たな支え合いの場づくり
- ▶ ごみ出しに関する困りごとや状況の丁寧な把握と、関係機関との協議

まず一歩! そのあと二歩、三歩と踏み出せるようにみなさんといっしょに支え合いのまちづくりを進めていきます



集って! 歌って! 元気になろう!

通信カラオケを通して
“居場所づくり・グループづくり”を
しませんか?

歌うことは、口や呼吸のはたらきを保ち、フレイル予防になります。また、好きな曲を一緒に楽しむうちに自然と会話が生まれ、交流も広がります。顔を合わせる機会が増えることで体調の変化や困りごとにも気づきやすく、日常の見守りや助け合いが生まれていきます。

会場	町老人福祉センター 桃源荘 大広間		
利用対象	65歳以上の方の団体	利用人数	最低10名以上
利用回数	月2回まで	利用料金	無料
利用日時	月、火、水、木、金 (土日祝日は、お休み) 9時~12時または、13時~16時 (1回3時間まで)		
予約方法	① 町社協へ TEL 242-6665 ・利用する方 (10名以上) の名簿を提出 ・通信カラオケ機器の予約 2か月先までの予約ができます (例: 当月予約ができるのは、翌月と翌々月)		
	② 町高齢者福祉係へ TEL 214-9108 ・桃源荘大広間の予約 2か月先までの予約ができます (例: 当月予約ができるのは、翌月と翌々月)		
お問合せ	町社協 TEL 242-6665 (担当: 神田)		

4月から
桃源荘の大広間に
通信カラオケを
常設♪



やってみたい! が動き出すとき 実感を通して「なるほど」が増えていく

2/13・27 体験から見えてきた「寄り添う」ということ
～寄り添いドライバー養成講座～



JAF、作業療法士、理学療法士、介護福祉士など多様な講師から熱心に学ぶ



高齢者疑似体験での階段昇降や、車の乗降では驚きの声も

下りはこんなに怖いものなんですね

講座後の活動見学をきっかけに、実際にボランティア活動をスタートされた方も。不安や迷いを抱えていた方が、安心して一歩を踏み出すきっかけとなりました。

3/3 LINEで広がる、つながりのかたち
～ボランティア交流会・LINEの使い方講座～

ボランティア交流会とあわせて行った“LINEの使い方講座”では「もっと知りたい」「もう一度教えてほしい」といった声も多く寄せられました。

ボランティア同士のつながりを広げ、活動を支えるツールとして、今後も学びを重ねていく必要性が見えてきました。

ボランティア講座・交流会

地域の中で、移動外出支援の担い手を広げていくとともに、行動に「寄り添うこと」の理解を目的に開催しました。

講座では、声かけや介助のポイント、安全への配慮などを学ぶだけでなく、実際の送迎場面をイメージした体験も実施。

参加者からは「寄り添いが必要な方の気持ちがわかってきた」「事前の声かけが大事なんですね」といった声が聞かれ、実感を伴って学びが深まっていく姿が印象的でした。

「やってみたい」が活動の第一歩に



今回の講座と交流会は、地域の中に新たな支え合いの芽を育む時間となりました。

これからも、ボランティア活動による人と人がつながり合う場づくりを進めます。

「ひとりじゃない」と感じられる場へ - 家族介護者のつどい -

令和7年度は、介護をされているご家族を対象としたつどいを2回開催しました。

1回目は「ピラティス」、2回目は「心をちょっと元気にするコツを知ろう」をテーマに実施し、どの回も後半の茶話会では会話が弾み、時間を忘れて語り合うあたたかな時間となりました。



参加しやすい場へ

当初の「在宅介護者のつどい」の名称から「施設を利用していても介護者としての悩みはある」という声を受け、在宅・施設利用を問わず多くの介護者の方が参加していただけるよう「家族介護者のつどい」へと見直しました。

同じ立場の方と話しができて、気持ちが楽になった...



自分の心の持ち方を見つめ直すきっかけになった

これからの予定

令和8年度は、参加者アンケートをもとに、年3～4回の開催を予定しています。

第1回は6月に「無理をしない食事の用意」をテーマに開催予定です。日々の介護の中で感じる“ちょっとした大変さ”に寄り添いながら、無理なく続けられる工夫を一緒に考え、交流の時間も大切にします。

お知らせ

障がい者希望の旅

岐阜・高山ゆったり巡り

日時 6月23日(火)～24日(水) 午前7時20分出発～午後5時45分頃到着(予定)
 目的地 岐阜県(岐阜県かがみはら航空宇宙博物館、高山陣屋など)
 参加費 町内在住で障害者手帳をお持ちの方とその家族...20,000円
 ボランティア...10,000円
 定員 25名(先着順) 申込み 6月8日(月)までに 町社協へ TEL 242-6665

ゆとりある遠方外出を楽しみませんか

令和8年度 事業計画 (概要)

人と人がつながり、支え合える地域づくりを
ワンチームとなって取り組みます。

令和8年度
目標

「自分から一歩前へ つながる・つなげる地域ふくし」

～ **ふ**だんの **く**らしの **し**あわせづくり～

- “ふだんの” 暮らしの実現に向け、住民や利用者に信頼される一番身近な相談相手となる社協職員を目指します
- 相手と自分を大切にコミュニケーションを通じて、意見の違いがあってもチームで前向きに課題解決に取り組みます

重点目標	地域福祉課	・【ふだんの暮らしのしあわせ】を“守る”“保つ”“生み出す”視点を共有し、課内外の連携を深めることで、地域のみなさんの声を反映し、柔軟な発想と関係者との協力を活かした対応ができる。
	介護サービス課	・「参加と活動」を通じて地域とつながり、一人ひとりが役割を持って「ふだんの暮らしのしあわせ」の中で「生きがい」を感じられる介護サービスを提供します。 ・「自分から一歩前へ」踏み出す姿勢と対話を大切にし、お互いを尊重し合いながらチームで前向きに課題を解決する職場を築きます。

地域福祉課

暮らしの中の“ちょっとした困りごと”を地域で支え合えるよう、今年度もさまざまな取り組みを進めます

1. ごみ出し支援に向けた連携と仕組みづくり

ごみ出しに困っている高齢の方や障がいのある方への支援について、行政や地域の関係者と連携しながら、無理なく継続できる仕組みづくりを進めます。

2. 生活支援ボランティアの活性化

新たに町地域包括支援センターに配属の生活支援コーディネーターと連携し、生活の困りごとの把握から適切な支援へのコーディネート、新たな生活支援ボランティア活動の創出に取り組みます。

3. 相談機能の強化

金銭面や人とのつながり、家族関係など、さまざまなお悩みに対し、丁寧にお話を伺いながら、関係機関と連携して支援を行います。

4. 家族介護者のつどい開催

家族を介護している方向士が悩みや思いを分かち合い、気持ちの負担が少しでも軽くなり、日々の暮らしにつながるよう、つどいを開催します（不定期）。

- その他、在宅生活への支援（生きがい福祉バス運行サービス、在宅介護支援金給付等）に取り組みます。

介護サービス課

単なる「介護の提供者」に留まらない、その先にある「何をしたいか」という一人ひとりの願いを形にしていける支援をします

1. 居宅介護支援（ケアマネジャー）

ケアマネジャーは利用者の「やりたい」に寄り添う「最も身近な伴走者」です。本人の意欲を尊重し、具体的な「参加」の姿を描くとともに、根拠に基づいた言語化と質の高いマネジメントで、生きがいある暮らしを支援します。

2. 訪問介護事業（ホームヘルプサービス）

訪問介護は在宅でその人らしい生活を送るための「自立支援」です。潜在的な願いをくみ取り、関係機関と連携して社会参加を促進します。家事等も「一緒に行く」ことで役割と自信を再認識し、生活の場から社会的役割の再構築を目指します。

3. 通所介護事業（デイサービス）

通所介護は、社会との接点となる自分らしい暮らしを支える場です。個別の願いに基づいた機能訓練や、買い物等の外出事業を通じ、社会参加の機会を提供します。家族の負担軽減も含め、在宅生活全体を支援します。

令和8年度 資金収支予算 (概要)

(単位：千円)

収入		支出	
勘定科目	予算額	勘定科目	予算額
会費収入	3,220	人件費支出	216,305
寄附金収入	50	事業費支出	58,204
経常経費補助金収入	19,408	事務費支出	15,272
受託金収入	46,516	貸付事業支出	140
貸付事業収入	164	助成金支出	7,622
事業収入	148	負担金支出	140
介護保険事業収入	214,889	福祉基金積立金積立支出	92,000
障害福祉サービス等事業収入	993	積立資産支出	20,071
受取利息配当金・その他収入	1,634		
福祉基金積立金満期収入	98,000	支出合計 (②)	409,754
積立資産取崩収入	16,200	当期末支払資金残高 (①-②)	38,873
前期末支払資金残高	47,405		
収入合計 (①)	448,627		



事前に準備した
「メッセージカード(上)」と
「蝶々ののれん(右)」

3/5・9・13 笑顔と感動の涙が溢れる、

デイサービスの多世代交流

日ごとに暖かさが増し、春の訪れを感じる3月。「町デイサービスセンター」と「デイサービスセンター花の里」に、町内の元気な園児たちが遊びに来てくれました。

子どもたちの明るい声が響いた瞬間、利用者さんの表情はパッと輝きました。手作りのおもちゃや似顔絵のプレゼントには自然と笑みがこぼれ、一生懸命な歌の披露には大きな歓声が上がりました。この日のために、利用者さんも心を込めて準備を重ねてきました。花の里では卒園のお祝いに手作りの「蝶々ののれん」を贈り、町デイでは2週間前から丁寧に色を塗った「メッセージカード」を園児一人ひとりに手渡しました。

直接手を握り、ハイタッチを交わす場面では、感動で涙を流す姿も。「遊べて楽しかった!」という園児の笑顔と、慈しむような利用者さんの眼差しが交差する、春の陽だまりのようなひと時となりました。



一杯の香りに「すまいる」が広がる



デイサービスセンター花の里では、本格ドリップコーヒーを提供するボランティア「すまいる☺カフェ」による至福のひと時を楽しみました。

会場にコーヒー豆を挽く豊かな香りが広がると、利用者さんからは「やっぱり香りが違うね」と感嘆の声が漏れました。丁寧に一杯ずつ淹れられた温かなコーヒーを手に、みなさんはゆっくりとその深い味わいを楽しみました。

「すまいる☺カフェ」のみなさんは「お味はいかがですか?」と一人ひとりに優しく声をかけ、利用者さんの満足そうな表情に触れて「喜んでいただけると本当に良かった。ぜひまた来たいです」と、交流を通じた活動の喜びを深く感じていました。その名の通り、一杯のコーヒーが結ぶ温かな絆で、会場中が笑顔(すまいる)に包まれる特別な一日となりました。



しょうぶ提供のお願い

デイサービスセンターでは5月上旬から6月上旬にしょうぶ湯を予定しています。ご自宅の畑や山で栽培されている方などで、ご提供いただける方はご連絡をお待ちしています。



「ふだんのくらしのしあわせ」を
支える福祉の仕事
～町で働く「ふくし」のカタチ～

第4回

カンバラ セイ
スクール
ソーシャルワーカー

神原 井 さん

(長野県教育委員会北信教育事務所 / 長野市教育委員会)



1 スクールソーシャルワーカーとはどのようなお仕事ですか？

不登校やいじめ、虐待、貧困など、さまざまな課題を抱える子どもと家庭に関わる福祉の専門職です。学校を拠点に、子ども本人だけでなく、家庭や学校、医療・福祉などの関係機関と連携しながら、環境を整えていきます。子どもが安心して学び生活できるよう、「その子に合った環境」をつくるのが役割です。長野県と長野市に所属し、小布施町の小・中学校や高校、特別支援学校を対象に活動しています。支援会議などを重ねながら、学校に行きづらい子どもには外へつながるきっかけをつくる訪問支援にも取り組んでいます。

2 この仕事を選んだ理由やきっかけを教えてください

長野県でスクールソーシャルワーカーとして約7年勤務しています。以前は東京で児童福祉に約20年携わり、虐待対応などを専門にしてきました。もともとは女子サッカー選手として活動していましたが、海外で警察の現場に同行した経験が大きな転機でした。DVや家庭問題の現場で、被害者・加害者を問わず社会的支援が連動していく様子を目の当たりにし、「人の暮らしにここまで踏み込む仕事があるのか」と衝撃を受けました。帰国後に社会福祉士の資格を取得し、国内外で経験を重ねながら、この道を選びました。

3 この仕事を通じてどのようなスキルや能力が身につきましたか？

何があっても動じない、揺るがないたくましさ。そして、立場の違う人たちをつなぐ調整力です。相手の立場そのものにはなれなくても、「その人が見ている世界をどこまで想像できるか」が問われます。表面に見えている問題だけでなく、その奥にある背景まで、パズルを組み立てるように試行錯誤しながら理解していくことを大切にしています。

5 日頃、どのようなことを大切にしていますか？

「子ども中心(チャイルドファースト)」の視点です。大人の都合ではなく、子どもの声や思いを丁寧に聴くことを大切にしています。すぐに言葉にできない子どもも多いからこそ、時間がかかっても安心して話せる関係や環境をつくることを意識しています。また、成長に伴い学びの場が変わっても、支援が途切れずにつながっていくことも大切にしています。

4 この仕事ならではの喜びややりがいは？

一つとして同じケースはなく、正解もない。難しい仕事です。それでも、関わる中で子どもの表情がフッと変わる瞬間や、環境が動き出し、前に進むチャンスに立ち会えることがあります。人の命の力やたくましさに触れること、そして“人間らしさ”に真正面からガチンコで向き合うその手応えが、この仕事のやりがいです。

6 この仕事を目指す方へひとこと

とにかく、いろいろな経験をしてほしいです。理論だけでなく、実際に体験し、自分の感覚として腹落ちしたものが力になります。世界は広く、人の生き方も本当にさまざまです。そうした違いを「面白い」と思える柔軟さが、人の人生に踏み込むこの仕事には欠かせません。どんな経験も無駄にはなりません。

社協HP



女子サッカー選手からの転機、そして出会いに導かれた歩み——誌面に載せきれなかった貴重なエピソードや神原さんの熱い想いをホームページで特別公開しています

◀ [こちらの二次元コードから]

日赤活動資金の募集



「いざ」という時の備え、命を守る力に

5月の「赤十字運動月間」に合わせ、活動資金を募集します。お寄せいただいた資金は、国内の被災地での医療救護やボランティア育成、国際的な救助活動に役立てられます。皆さんの継続的なご支援が、多くの命を救う力となります。温かなご協力をお願いします。

社協会費ご協力をお願い

「お互いさま」で支え合う町づくりに

町社協では「誰もが自分らしく、支え合って暮らせる町」を目指し、地域福祉活動を推進しています。会費は、こうした活動を皆さんと共に進めるための大切な財源です。「ふだんのくらし」を安心して送れる町づくりのために、ぜひお力添えをお願いします。